



公務員試験
合格講座

入門講義経済

渡辺講師



▼ 物価高、再燃 1月物価3.2%上昇 コメ1.7倍、キャベツ3倍(朝日新聞2025.2.22)

身近な食べものの値上がりが目立つ
消費者物価指数の前年同月比

	昨年12月	今年1月
コメ類	64.5% ↗	70.9% ↗
キャベツ	125.7% ↗	192.5% ↗
ハクサイ	55.7% ↗	109.9% ↗
ネギ	11.2% ↗	27.5% ↗
ブロッコリー	58.3% ↗	83.4% ↗
ダイコン	54.5% ↗	59.2% ↗
トマト	48.9% ↗	43.1% ↗
ミカン	25.2% ↗	37.0% ↗
チョコレート	30.6% ↗	30.8% ↗
コーヒー豆	22.2% ↗	23.7% ↗

物価上昇の勢いが再び強まりつつある。1月の消費者物価指数(2020年=100)は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が109.8となり、前年同月より3.2%上がった。伸び率は3カ月連続で拡大。生鮮食品もふくめると4.0%の上昇で、2年ぶりに4%台に乗った。総務省が21日に発表した。生鮮食品をのぞいた総合指数は、3年5か月連続で上昇した。伸び率が日本銀行が目標にする「2%」以上となるのは、2年10か月連続だ。

物価上昇の勢いが再び強まっている
総務省の消費者物価指数の前年同月比

問 インフレーションに関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。(地上<教養>:令3)

1. インフレーションには需要の増大によるものとコストの増大によるものがあり、需要の増大によるインフレーションは悪いインフレーションで不景気をもたらす。
2. 物価の上昇に合わせて賃金が上昇するとき、税の累進性を前提とすると、インフレーションは実質的に増税を招くことになる。
3. 固定金利で金銭の貸借が行われた後に予期せぬインフレーションが生じると、借り手は損をする。
4. 近い将来にインフレーションが生じるという予想が成立すると、投資や支出は減る傾向にある。
5. 各国の中央銀行はインフレターゲットを設定しており、日本では物価上昇率を年0%とするインフレターゲットを設定している。

1. 経済系科目の出題分野

▶試験種ごとの出題数

注：出題数は出題年度により異なる。

	社会科学 (経済)	ミクロ	マクロ	財政学	経済事情	記述
国家一般職	1	5	5	5		
国税専門官	1	4(経済学)		6	2	○
財務専門官	1	6(経済学)		6	2	○
裁判所事務官	2	10(刑法と選択)		0	0	
地上(全国型)	3	9		3	0	
地上(関東型)	3	12(+経済政策1)		4	2(経済史)	
特別区	1	5	5	5	0	
東京都I類B	1	択一なし				○
市役所	1	11		3	0	

(1) 社会科学(経済)

公民(中学・高校)に近い。各専門分野の基礎になる部分。専門分野の学習でほぼカバーできるが、含まれていない論点(例:独占の形態、金融政策の変遷、消費者保護など)もあるので要注意。

(2) 経済原論(経済理論)

公務員試験の主要科目。ミクロ経済学とマクロ経済学からなり、他のすべての経済系科目の基礎。公務員試験全科目の中でも優先的に取り組むべき科目。

①ミクロ経済学…個々の経済主体(=消費者、生産者)の経済活動をミクロ(微視)的な視点で分析

<学習項目>①消費者行動理論 ②生産者行動理論 ③市場理論 ④市場の失敗 ⑤国際貿易

②マクロ経済学…一国全体の経済活動をマクロ(巨視)的な視点で分析

<学習項目>①財市場 ②貨幣市場 ③IS-LM分析 ④労働市場 ⑤AD-A分析 ⑥インフレと失業 ⑦経済成長論 ⑧国際マクロ経済学

(3) 財政学

財政制度、財政理論、財政事情などに関するもの。財政理論は経済理論と重なる部分が多いため、経済理論が十分に理解できていれば、財政制度と時事的な経済財政事情を少し詰め込むだけで得点が期待できる。

(4) 経済政策

経済原論にはほぼ含まれる分野。特に取り上げて学習する必要はない。経済原論と財政学の2分野で頻出ポイントはカバーできる。

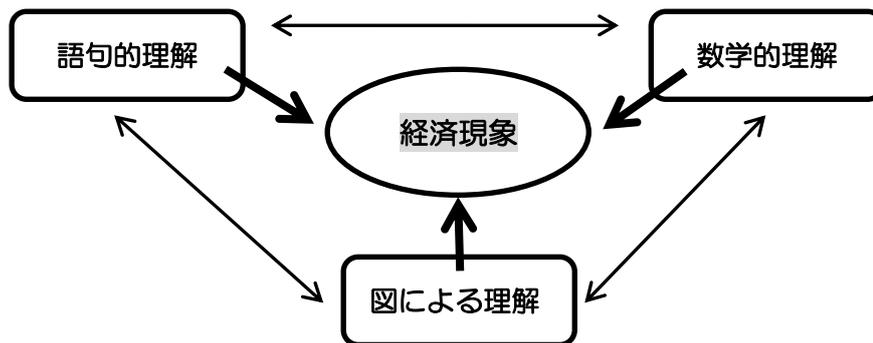
(5) 経済史・経済事情

経済史は戦後の日本経済史が中心。80年代以降は経済事情とも絡んでくるので要注意。一般教養の社会科学(経済)と併せて学習すると効率がよい。経済事情は、最近の経済に関する時事問題が出題される。特に過去一年での経済的事件、経済データの変化に関するものが多い。細かい出題がなされるため、得点しようとすると確かな知識を要する。直前対策として実施する。

*経済記述・国税専門官・財務専門官・衆議院事務局(一般職)・東京都IB(IA)、警視庁警察事務
 択一の学習を終えてから記述の対策を行う。職種によって選択できる科目や試験時間、出題形式、字数などが異なるため、事前に調べておいた方がよい。

2. 科目の特徴と出題形式

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| ①抽象的な専門用語(例:完全競争市場、限界代替率など) | ☞日常用語で具体的に理解する |
| ②数学的な展開(例:関数、微分、指数、方程式、因数分解など) | ☞中学数学+微分 |
| ③グラフによる図解(例:需要曲線、供給曲線など) | ☞グラフの読み方を身に付ける |



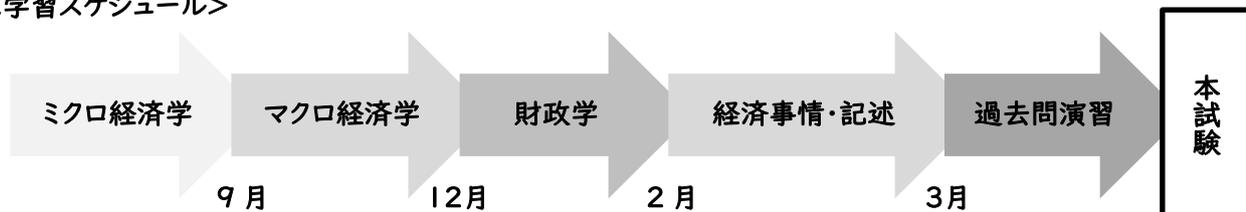
【出題形式】

- ▶正誤問題:「次の記述のうち、妥当なのはどれか?」 ☞経済用語の日常用語への変換
- ▶計算問題:「～はいくらになるか?」 ☞公式の活用法・解法の暗記・計算練習
- ▶図の問題:「次の図は、～を表したものであるが、これに関する記述のうち、妥当なのはどれか?」

3. 学習方法とスケジュール

- ①予習よりも復習重視……問題集・過去問(良問)を繰り返し解く。講義時→講義後→次回講義前
- ②グラフ・数式は自分で書いてみる、自分で計算する……計算のくせ、苦手部分を把握しておく

<学習スケジュール>



- <講義> 教養経済 ▣ ミクロ経済学 ▣ 夏期講習(ミクロまとめ) ▣ マクロ経済学 ▣ 財政学
 ▣ 直前対策 ▣ 経済事情・経済史

4. 計算を少し・・・

(1) 1次関数 : 次のような直線の式を求めよ。

① 傾き-3で、点(1, 3)を通る直線の式

② 縦軸切片1で、点(4, 5)を通る直線の式

(2) 方程式 : 次の方程式の解を求めよ。

① $2X^2 - 6X + 4 = 0$

② $4X^2 - 12X - 7 = 0$

③ $X^3 - 5X^2 - 36 = 0$

(3) 指数計算 : 次の計算をせよ。

① -5^2

② 2^{-2}

③ $100^{0.5}$

④ 3^0